



新型コロナウイルスの感染が収まらず、不安な日々が続いていますが、春から初夏にかけての行事を計画しました。各行事の実施にあたり、新型コロナウイルスの感染状況などによって、判断しますので、中止になる場合があるかもわかりません。ホームページなどで確認の上、マスクなど感染対策をしての参加をお待ちしています。



3~7月行事の見どころ



ネムノキ

●3月6日(土) 西宮で新品種として登録された「今津紅寒桜」を見る

2019年4月に西宮市植物生産研究センターが新たに「西宮市オリジナルサクラ」2品種の増殖に成功したと発表しました。その1つは「越水早咲き桜」で、もう1つが11月に市民公募により名づけられた今津紅寒桜



桜(イマズベニカンザクラ)です。ソメイヨシノよりも2週間ほど早く、通常のカンザクラよりは遅く開花します。

今津紅寒桜(イマズベニカンザクラ) 大東公園 2020.3.6 撮影

また、花はカンザクラより大きい一重咲きで、形は半開き状でお椀のような形状になります。花の色は、蕾の時は紅色で、やがて淡紅色と少し薄くなります。花柄は短く、1つの花序には3~5個の花が付きまます。大東公園(今津大東町6-7)にある今津紅寒桜を見に行きましょう。集合は阪神電車「久寿川」駅 10時で、公園は駅から南に約300mのところにあります。その後、今津浜で建設が進む新川の水門の様子を見て、甲子園浜海浜公園に行きます。



越水早咲き桜

●4月11日(日) 六甲山でブナとタムシバを見て、西宮の最高地点に行く

六甲山の標高800m~900mにはブナが見られます。西宮市域にも少し生育しています。その西宮市に育つブナを訪ねてみましょう。ブナは日本を代表する落葉樹です。世界自然遺産の白神山地のブナ林は有名です。



ブナ



オオカメノキ

さらに、西宮市で最も高い場所(標高898.6m)にも行きましょう。コブシに似たタムシバやオオカメノキの花を見ることができでしょう。集合は「宝殿橋」バス停。芦屋(阪神芦屋、JR芦屋、阪急芦屋川など)から有馬行きのバスに乗車し、「宝殿橋」で下車します。トイレは宝殿橋バス停横にあります。コースの途中にはありません。

● 5月8日（土）猪名川河川敷の帰化植物の観察

今回はJR伊丹に集合し、猪名川の河川敷を川下に歩いて、国指定史跡の「田能（たの）遺跡」までを往復し、外国からやってきたこの近辺ではあまり見られない植物を主に観察します。草刈りの後でなければ、いろいろな植物に出会えることでしょう。コースは伊丹市の南東の位置で、田能遺跡資料館は尼崎市になります。



ナヨクサフジ



セイヨウヒキヨモギ



トガリハツメクサ



ヒサウチソウ

ヒサウチソウは猪名川では、昨年見かけた地中海周辺が原産の半寄生の帰化植物で、日本では1982年に名古屋で見つけれられたのが最初だそうです。名は植物学者、薬学者の久内清孝氏を記念してつけられました。今回、見られるといいですね。

● 6月6日（日）甲山観察湿原のトキシソウと帰化植物のセッカニワゼキショウを見る

甲山神呪寺に集合して、甲山学習館を通り、甲山を1周します。途中、甲山観察湿原でトキシソウを観察します。トキシソウはたくさん湿原に咲いていたのですが、今では甲山観察湿原で見られるだけになってしまいました。また、昨年見つけたセッカニワゼキショウは、今年も群生していると思います。雪のように白い花のニワゼキショウということで名づけられました。林道沿いにはコアジサイも咲いていることでしょう。1周するとミコシガヤも見ることができるといいます。ミコシガヤは兵庫県の貴重種に挙げられています。



トキシソウ



セッカニワゼキショウ



コアジサイ



ミコシガヤ

● 7月4日（日）剣谷湿原でコバントンボソウやハッチョウトンボの観察

奥池から剣谷湿原に行きます。西宮市の貴重な湿原です。湿原では、小さなトンボが止っているように見えるので名がついたコバントンボソウがひっそりと咲き、日本で最も小さいトンボのハッチョウトンボが目を見れば探し出せると思います。今回は、芦屋の各バス停（阪神芦屋、JR芦屋、阪急芦屋川など）から有馬行に乗り、「奥池」バス停で下車して、集合します。



ハッチョウトンボ ♀



ハッチョウトンボ ♂



コバントンボソウ



カキラン

コースは比較的平坦です。トイレは奥池のバス停近くにありますが、コースの途中にはありません。午後は奥池周辺を散策します。